



Personal MBA

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

現実の許容性が企業を決定するならば、自己はその許容性を最大に求めるものである。

ビジネスが遊びでなくなる時、ビジネスが現実を与え始める。

これらは最も真剣な場であるビジネスという現実は、その新たな可能性と挑戦において、現実そのものを有するのである。

虚業は決して現実を与えない。

仕事は決して甘えを持ってはいけない。その時組織は壊れるのである。この厳しさが企業を与えるのである。

これら厳しさが、システムを求め、その高い生産性を得ることが、高い利益性における企業経営を実現できるのである。

*KURODA International*



この厳しさは、合理主義という西洋の源流を求め、それらが、飛躍的な企業の向上を時代先端性における企業構築とともに実現できるのである。

これらは日本的経営が時代においてその飛躍を得ることなのである。

経営は必ず内実を求めるものである。それを得ず先端性に従うことは、中身を得ず、結果を得ることができないのである。

もっともな慎重さは、正しい経営の態度である。それが数字を与えることは正しいのである。

真剣さは企業における唯一の評価である。なぜならばそれが唯一結果を与えるからである。